

植えることができる。そして、利用者は、作業スタッフが撮影したモニター画面を見て「水やり」や「雑草除去」などの実際に栽培に必要な作業を指示していく。その指示に従って、作業スタッフが実際に作業をし、その状況を画像としてコメントとともに利用者へ送るといった流れだ。また、作業を指示するとその度に100円から数百円の料金がかかることとなる。もし作業の指示を怠れば、もちろん畑は荒れ、野菜はうまく育たないが、専門の農業アドバイザーがその都度、的確なアドバイスを提供し、野菜を育て、収穫ができれば、おいしい野菜が利用者のところに配送されることとなる。

松尾さんは、「畑は使える人が使ったらいい」と言う。「地元では今、畑を使う人がいない。でも町外には需要があるかもしれない。遠いから使えないならインターネットで使えるようにすればいい」というアイデアから生まれた事業である。

また、障害者就労継続支援事業の作業員をスタッフとして従事させているところも地元の福祉を考えてのことで、まさに「農業×福祉×IT」を上手く融合させて成立している新しい事例といえることができるだろう。

(2) 障害者就労継続支援事業所「いにしき」

障害者就労継続支援事業所とは、通常の事業所

で働くことが困難と考えられる障がい者を対象として、就労の機会を提供し、技能や就労能力向上のために訓練を行う事業所のことである。これにはA型とB型があり、A型は、雇用契約を結び最低賃金が保障される形で従事することとなり、B型は、雇用契約を結ぶことが困難な方が利用するものである。

障害者就労継続支援事業所は、岬町に2カ所あり、精神障害を有する方を対象としたところとしては「いにしき」が唯一の事業所である。現在、A型で4人、B型で4人の利用者が訓練を受けている。

「いにしき」では、リモコン農園の作業を始め、Re-Liveが運営する貸し農園の周辺整備など農業をメインとして作業をするようにしているが、作業スタッフそれぞれができる仕事を見ていきながら、きちんと目標を定めて、やれることからゆっくりやっていくということを心掛けている。

障がい者の社会参加について、松尾さんは、「障がい者に農業を本当にできるようになって欲しいので、しっかりと教えるようにしているし、その他にも様々なことをしてもらってトレーニングをしている。そのスキルや経験が、彼らが社会に出て行く足掛かりになればと考えている」と語り、実際に「いにしき」を出て、民間企業で働いてい

る人もいるということだった。

(3) Re-Live体験農園、着地型観光イベント

「岬町に実際に来ていただかないと、この良さは分からない」ということで、体験農園という事業も行っている。体験農園とは、農業アドバイザーを中心に、そのときに実際に必要な作業をしてもらい、収穫した作物を持ち帰ってもらうものである。また、体験農園で収穫した野菜や地元で獲れたアワビやサザエなどの新鮮な海産物を使ってバーベキューも行っている。

そして、その体験農園の延長として、NPO ZOO CAN DREAM PROJECTという団体と協働で、月に2回程度、農業体験やバーベキューのみならず、釣りや海水浴、さらにはホテルやウミホテルの観察などの町全体の資源を使った総合的なプログラムを組み、着地型の観光イベントを実施している。このイベントには、Re-Liveが事務所として使用している古民家を利用した宿泊付きのプログラムも用意しており、できるだけ長い時間、岬町に滞在してもらうことにより、岬町の魅力を町外からの来訪者により強く伝えるという工夫を凝らしている。

この体験農園でも、「いにしき」の作業スタッフが運営に携わっており、農園の整備や宿泊所の掃除、海産物の調達など随所で活躍している。

(4) その他

①耕作放棄地の管理

法人立ち上げ時から基本としている事業であり、2か月に1件ほどは「うちに畑あるけど、管理する人もいないし小作する人もいないから、管理してほしい」という連絡が入るそうだ。依頼者自身が高齢で、後継ぎもない場合が多いそうだが、要望があった場合は、絶対に断ることなく引き受け、無償で管理をするようにしている。そして、契約を結ぶことにより、ただ管理するだけでなく、土を耕し作物を植え、しっかりと有効活用していくということを大事にしている。畑の条件によ

ては、リモコン農園に使われたり、貸し農園、体験農園の畑に使われることになる。

②Re-Live貸し農園の運営

岬町へ実際に足を運ぶことができる人は、リモコン農園ではなく、自らの手で畑を耕すことができる。今や全国的に人気となっている貸し農園をRe-Liveでも運営しているのだ。これもリモコン



体験農園での農作業

農園と同じく耕作放棄地であったところを利用しているものであり、農園の整備は「いにしき」の作業スタッフが先行し、農作業については、農業アドバイザーが指導やアドバイスをを行うという体制も整っている。

③放課後等デイサービス「ちょいす」

発達障害の児童のケアをするためのデイサービス事業が今年の8月から新たに始まっている。これは、児童の放課後や長期休暇中を利用して生活能力向上のためトレーニングを行い、その過程を通じて、その児童に居場所を提供するとともに自立を促進していくということを目的としている。この種のデイサービス事業としては、町内唯一の事業所である。

4 事業の成果・課題

(1) 成果

松尾さんが語る一番の成果は、「いろいろな人とつながることができた」ということだ。本当にゼロからのスタートの中で、「いろいろな人に助



収穫する野菜を磨くスタッフ



畑で作業するスタッフ